大日本蠶絲會報

第拾五號

明治廿六年九月

〔明治廿五年四月七日內務省許可〕

大日本蠶絲會

大日本蠶絲會報第拾五號目次

●論　說

◎養蠶上の注意　福島儀平

●寄　書

◎蚕絲貿易の過去と未來　大日本蠶絲會　橋本重兵衛

◎新潟縣蠶況一瞥　大日本蠶絲會　通常會員　横田長太郎

●統　計

◎生絲輸出一年間百廿五年七月の統計◎横濱商館生絲附屬品買取一ヶ年自廿五年六年末◎七月中生絲屑物輸出數量元價及敗絲統計◎七月中絹布類輸出數量及元價統計◎八月中横濱生絲手合高國益價格及外國爲替相場表

●問　答

◎蠶其他に關する質問并に答◎桑及「ウミコ」に付質問并に答

●外　報

◎紐育生絲及絹物商況◎生絲及絹布に關する調査（上海領事及紐育總領事の報告）

●雜　報

◎蠶種組合◎風穴蠶種の被害に就て◎夏蠶の飼育盛に行はる◎生絲直輸合資會社◎調伸買人の發狂◎四多屋蠶の秋蠶及品評會◎信州に絹絲の製造を增す◎蠶樓に關する諸問の答◎高岡製絲所の擴下◎出張と歸京◎大日本蠶絲會員の加入◎第四回内國勸業博覽會規則及全國店規則の發布

◎大日本蠶絲會役員

○技藝委員

農學士　今西直次郎
理學士　伊藤小左衛門
理學士　星野正太郎
農學士　水野長太郎
農學士　押川則吉
理學士　櫻井甚一郎
農學士　小野孫三郎
農學士　菅野右衛門
農學士　横井時敬
農學士　高木節三郎
農學士　田中武平
農學士　田島武次郎
農學士　田中義一郎
農學士　藤井寛三郎
農學士　青木純一郎
農學士　松本喜三郎
理學博士　佐々木忠二郎
農學士　白井光太郎
理學士　下田伊左衛門
農學士　伊藤一隆
理學士　賀川豁
農學士　大日方純夫
農學士　小林榮
農學士　堀内久太郎
農學士　高原信
農學士　田島信夫
農學士　新井信
農學士　酒匂常明
農學士　新渡戸稲造
農學士　町田忠治
農學士　横山雄
農學士　柴田傳次郎
農學士　木村九郎
理學士　澤野淳
農藝化學士　白井光太郎
理學士　下田伊左衛門
理學士　賀川豁
理學士　八田捷也
理學士　岡野知十
理學士　菅野右衛門
農學士　高橋信眞
農學士　松永伍作
農學士　佐々木忠二郎
農學士　佐藤義三郎
農學士　下田伊左衛門
農學士　佐藤國太郎
農學士　下田伊左衛門
農學士　星野長太郎
農學士　小畑信次郎
農學士　吉田良義
農學士　池田廣正
農學士　兒玉九寶
農學士　木村九寶
農學士　芝山宗太郎
農學士　澤山宗太郎
農學士　佐々木七郎

○評議員

○幹事長

高橋信眞　松永伍作　岡毅　小畑岩次郎　大日本蠶絲會

大日本蠶絲會報第拾五號

●論　說

◎養蠶上の注意（第二回大集會演說）

福島儀平

編者曰く第二回大集會演說筆記は會報第拾壹號及第拾貳號に於て登載せしも拾參拾四の兩號には編纂上の都合に由りて之を載することを得ざりしが本號より復た逐次掲出して會員諸君の瀏覽に供すべし

私は今日此方らに出まする前に御話も致さず、突然に練本さむへ御願み申して演題を出した次第で、福島と云ふ者で、私は寔に字を知らぬ、唯々實業を知つて居る者で御座りますから、左樣御承知どうか宜しく願ひます

そこで私は今日皆さむと御相談をしたいと云ふやうなことが御座りますので、養蠶の事は今下田さむも十分御話が御座りました、進歩するに就て弊害が起るは私も同感で御座りますす、そこで私のは弊害が別で、慾と云ふ弊害が一つ付くのである、養蠶をして進歩する、澤山取らふと云ふ……取らふと

云ふ慾が付く、そこで爾う云ふ慾は何か、一番作が宜からふ、蚕さむが極宜からふと思つてやる事が悪いので、極宜からふと思つてやる事が悪い事がある、一番實業に就て憂ふるは、蠶を飼ふて居る之に就て無理が多い此事の付いて來る事である、私が十二、三の時は無かつたが、夫が段々養蠶が進むに從つて無理が出來て來た、無理がある、養蠶をするには器械を改良しなければならぬと云つて、蠶室は昔通りで器械のみ別にする、器械を別にするから、あたらぬと云ふ者が多く出來て來た、私は唯々實驗上のみで御座りますから、夫故學理上から果して間違つて居るや否やは知らぬ、唯々あたらぬと云ふことを感じて居る、私は學問が無いのであるから、どうか練木さむの如き、學問もある、實際もあると云ふ方々に、此批評をつけて頂きたいのです、そこでどむな所に無理が在るかと云ふと、先づ私の家はずつと鹿末の家で御座ります斯う云ふ風の座敷（畧圖を畫きて示す）で御座ります、是が所謂埼玉縣の普通の八疊、神奈川縣に在る所の八疊の室、是に四尺の長い籠を二側つける人が出事て來たのである、即ち是が四尺、此方らも四尺、元と私共の幼少なる時は五尺八寸で、夫を三枚此處（圖に就て示す）に立てた、私能く實業で考へるに、どうしても蠶を飼ふ時は、一室の内の半分を以て夫に充て、剩す半分は扱ふ席にしなければならぬかと考へて居る、處で今御話した如く、當今は違つて四尺の長籠を二側にして作る、此弊害が澤山起つて來た、そこで夫はまだ宜しいが、甚だしくなりますと、二間半の室に持つて來て四尺の籠を二つ使ふ、是が非常に害である、是等を此儘にして打捨措く時は、日本の養蠶をして擴張し盛大ならしむることが出來ぬ、無理がある、無理を攜はず進歩することは難ふ御座ります、無理程オツカないことはないから、どうか之を改良して、八疊の室ならば三尺籠二つで、剩す場處は之が飼養桑を扱ふとか、爾ふ云ふやうなことの方に使ふやう、夫を法律のやうなもの、實業の法律にして定めたい、三尺五寸でもいけぬ、法律の力で此事はやりたい、或は私の話が違つて居るか知らぬが、どうか是等の事を皆さむに御相談したい考へである、是が一の無理、又蠶を飼ふ蓆、はやく云ふと蠶具、此蠶具の貯藏場と云ふやうなことに就て無理が少し出來て居る、別に蠶室の外に蠶具貯藏場を造ることが無理が出來て居るどうかと云ふと、周圍は壁で唯々出し入れの爲に一間の戸がついて居るのみで、其處を閉めて居る、何處からも氣が抜けぬ、蠶具を大變大事にして仕舞つて居るが、どうも蠶があたらぬ、風も這入らぬ、雨も降込まぬ、實に大切にして居るが、氣をつけて見るに蠶があたらぬ、あたつても節蠶が出來る、どうして仕舞つて置くに、夫で蠶が悪いかと、能々考へればわかる、先づ此養蠶家に就いて蠶の能くあたらぬと云ふ家がどこにもあるものである、あすこの家は年々どうもあたらぬ、どうもあそこの家は少しも苦をしないで能くあたると云ふ、斯う云ふ風なので御座ります、そこで夫に就ては蠶具の貯藏場を見ればわかる、夫は急度わかるです、能くあたらぬ家は、蠶具の貯藏場を四方壁にして、下から――土から四五寸離なして、ヤシ〳〵積むで居る、あたる家は一軒建で、家は極鹿末で、其處にも此處にも穴がある、いかにも穴があつて、障

子は下は峡けて、二寸も隙があるやうなのです、なぜ一方は大切に取扱ひ居るにあたらず、之に反し一方は左程取扱ひをせずもあたるが、是はなぜであるか、之に就き私數年考へて始めてわかつた、其麁末なる一軒建養蠶家の蠶具は、何れの處に仕舞つて居るか、火を焚く處即ち飯を炊いたり湯を沸かしたりする、火を焚く上の處に揚げて置いて居る、夫故器械は煤染て煤色になつて居るが、蠶は能くあたる、是等は思はず能くあたるので、そこで四方壁になつて居る所の器械の置場を見れば、此方のあたらぬのが能くわかる、其器械を澤山積むで居る、其積むで居る器械を引出して臭ひを嗅く、すると、どむな臭ひがすると云ふと、床下の臭ひ即ち黴の臭ひがする、是等は間違ひは無いあたらぬ、あたらぬのは大丈夫、床下の黴の臭ひがする、是即ち弊害である、個樣なる事にして置いては、誰が來やうと、學者でも教師でも如何やうなる人が來ても蠶は取れぬ、日本中如何なる有名な先生がやつても、一つ誤りがあつた日には、幾ら一等の教師でも頭を抱へて逃げる、器械の貯藏其宜しきを得ねば髭を生やした者が往くと云つても養蠶は無効になる、處で或は若し夫で必ず出來ると云ふのならば、私は掛合つて見たい（ヒヤ〳〵）學理もあり實業もある、斯う云ふ人にやつて貰いたい、（ヒヤ〳〵喝采）如何に種が良くても、誤りがあつては良いのが出來ない、誤りが無ければ繭は皆出來る、養蠶は爾う六ケ敷いことは無い、桑を與へて置けば宜いので（ヒヤ〳〵）下手な考へをしなければ能く上手に往くのです（ヒヤ〳〵）畢竟往かぬのは下手の考へを以てやるからである、どうも私の考へが間違つて居るか

知らぬが、間違ひは無い筈である、酒落臭い改良をして慾の深いことをすると蠶は作れぬ、兩方に三尺づゝ六尺にすると、八疊の室内では動かぬ、近頃器械は輕便になつたが、兩側にするとどうしても無理をしなければならぬ、蠶を作るに無理があつては、豐作は六ケ敷いから、是非皆さむに知らして左樣な事の無いやうに普及したい、私の言つたことが悪いならばどうでも宜しいが、此事は間違ひ無いのである、私は千葉縣でも埼玉縣でも、勿論私は埼玉縣の者であるが、どうしても養蠶地方に、無理が多い處はあたらぬ、此間私が千葉縣に往つたが、千葉縣の桑です、桑を復伐りをするのです、ヤクサイも無いことをする、如何にも私は慨いた、どうも如何にも九十九里の濱が、一里か一里半である處、其土地で此ヤクサの桑を作るは何か弊害があるからであらふと初め聽いた、處で其處の人達の話に注意して肥料は施し少しも悪いことはせぬと云ふので、私も段々其地方の人に聽いた處で、私の考へでは大變無理がしてある、先づ此處に今日御寄りなさつた方には其樣なことをなさることはありますまいが、桑を伐るに一尺、二尺と延びた處で伐る、而して甚だしき人は、一、二、三と、三度も伐る、どうで御座りませう、夫で良いのが出來ますか、どうしても出來ぬ、若い芽が生へ、三四寸五寸と中生への處、五寸も延びた處で復伐りをして居るのです、是が矢張弊害である、失禮だが印幡郡地方に私も教師をやつて居つた時視た、三度も伐るやうなことをするから、其樣なヤクサな事をしては往かぬ、一度に伐るのみにして、伐りなほすが悪いと云ふことを話した、處で夫は長野縣の人に教

はつた長野縣の種屋さむが教えた云々と云つたです、どうしても中伐り三四寸、五寸も延びた處で復伐りをするやうなことは、多く利益を得ることは出來ぬ、是等も隨分無理と私は思ひます、植物は何れの性か知らぬが、どうも是等も一の無理と云はずには居られませぬ、桑を伐るに就ては、今日忙がしくて若も中伐りにしたならば、翌朝直ぐ其剩りを伐らなければならぬので、最う三日も置いたならば、弊害が來る、是等も昔さむと御相談して左樣な事の無いやうにしたい、尙此段々蠶室の事に就て、無理の在る點を十分御話致さふと思つて參りましたが、練木さむより御話を願ふことに致します、今日は見渡せば大分昔さむの御演說もあるから、私は此邊で止めます（大喝采）

●寄書

◎蠶絲貿易の過去と未來

横濱　大日本蠶絲會贊成會員　橋本重兵衛

安政六未年即我開港の初年に於ける蠶絲貿易は和一斤に對し壹分銀貨五顆（一顆の現今相場三拾七錢五厘「以下倣之」和百斤百八十七圓九十錢）に始まり同年中十一顆（和百斤四百十二圓五十錢）に終れり（此年歐洲に於ける相場は英一斤歐洲上等絲四十四志即和百斤千四百六十六圓餘我蠶絲二十八志即九百三十三圓に價せり）明治元年に至り我蠶絲は歐洲に在て英一斤三十八志（和百斤千二百六十六圓なりしが反之本邦に於ける百斤の平均直段は僅かに五百五十五圓五十錢を以て取引をなしたり（歐洲相場に比して七百十圓五十錢の安直）夫れ斯の如く外商は本邦人の商算に疎く又海外の事情に暗きを特み所謂內商の盲を奇貨として其間に暴利を掠めたること實に甚しとせず

爾來明治十一、二年の頃に在ては輸入の輸出に超過するもの多きが爲め或種の經濟家は之を目するに國幣の濫逸となし財政の前途を憂慮して已まず又狹偏輕佻の儕輩は輸入商を指して遂に國賊と醜稱するに至れり翌十三年政府は我が民度商業知識の如何を察せず只輿論の勢向なりと速斷し國家の利福を進むるは直輸貿易の一事にありと確認し斯業の興起を計らんとして慫然之を幇援せり是を以て此年本邦に直輸會社の勃興したるもの一二にして止まらず故に內商は今まで歐商米買とあれば總ての事溫順退讓の手段を取りしが是より氣勢一變して萬事を擧げ渠に絕對的强硬を以て應ずるに至れり、例せば歐洲の蠶作穩らず從て其供給を盛んに本邦に仰がんとするに乘じ橫濱に聯合荷預所を設け外商をして內商所定の賣買方に從はしめんとせり、眼中射利の外一事なき外商は歐洲絲況の强盛を聞くものから膝を屈して內商の申出に從はんとしたりしが外國銀行に於て本邦商慣の確實ならざるが爲め假令該所の設あるも蠶絲品位の如何、斤量の過欠に就て不信の廉あるを口實とし爲替取組を峻拒したれば外商は忽ち資本の運轉に窮し、空しく手を拱いて取引を中絕し唯該所廢止の交渉に他事なきものゝ如く漸く十一月に至り曩きには一時の熱情に前後を顧みず勇敢此壯擧を為したれども其熱の漸く冷却するに從て利慾の念亦勃如たり是を以て徒らに氣勢に走て本業を忘れたることに省慮し遂に時期尙早を辭柄として聯合荷預所を撤排し舊例に倣て再び取引をなすこととはなれり、內商が必然攫み得べきの利を

して此休商の爲めに空しく放失したるもの實に莫大の額に達せり
當時世人の口にする所を聞くに直輸は國家經濟の唯一策なりと信ずるもの往々にしてこれあり然れども余を以て之を見れば蠶絲其物の價値が國富たる所以にして直輸産賣孰れを問はず唯其從行の手段たるに過きず故に時宜に應じ或は産賣を可とするあり或は直輸を可とするあり必ずしも一を以て他を貶すべきものにならんや、今日はいざ知らず貿易開始の際に在て内地商業の狹型に仕上られ、未外土の形勢に審かならざるの内商をして假りに龍動巴理の街頭に雜鬃(のれん)を掲げ斗籌(そろばん)を操らしめなば果して克く成算を期するを得るか余は斷じて首肯すること能はざるなり、然といへども今日に至るまで多少の風波ありしにせよ針路平安にして未曾て救ふべからざるの失敗に瀕したるとなかりしは蓋し外商が常に先驅して我を醒し我を起したるものにして其間果が時に奇利を恣にしたるとありと雖頻年國富を增進せしめ今日の擴張を致したるは外商の力與て大なるものならずや、讀者宜しく寛濶の胸腔を以て外商の心事を憫察せよ渠は多少慧機の能あるにせよ只自家身邊の榮華を求むるに汲々たるのみ、敢て我を覬覦して神洲の豐産富士を擧げ之を横領せんとするが如き勝斗を以て我に當るに非ず見よ開港以來斯業に從事する外商にして鉅萬の富を致したるもののあるか余は其答を聽んと欲するものなり之を慨言せば今日までの我が貿易の經歷程度より之を考ふれば狗盜に等しき外商も利便の人材として使役するの得策なりしとは夙に當業者の認承する所なるべし
又世人の熱叫する所の直輸商は外商と反し絲毫も私慾貪嗟の事なきか、余は直入其眞相の一斑を摘露するに於て何ぞ躊躇せんや請ふ姑らく靜聽せよ爰に一荷主あり一直輸商に對して市場に持あぐみたる蠶絲を時價より五十圓の低直にて販賣を申込み又海外需用者に買否問合の電報料として往返十音信分の通信を支辨し其返信を待つの約をなしたりと假定せよ直輸商は往信五字を以て出張店に通報したる所直ちに先方より需用者ある旨を返信せり然れども直輸商は之を直ちに荷主に示さず市場の氣配を察し或は其蠶絲は他店にて買入の摸樣あれば忽ち先きの返信を出して前約を履行するあり或は其絲價の氣配尙ほ下降せんとを見れば荏苒日を曠ふしたる後荷主に說て曰く歐洲よりは不承の返信ありたれども折角の依賴なれば前直より尙ほ五十圓を直引きせば買入をなすべしと已むを得ざるか如き口氣を以て渠に對するものから荷主も目前市勢の引立たざるを氣遣ひ遂に其甘言に迷ひ默從するに至る然れば直輸商は既に需用者に賣渡したる直段より窃に五十圓餘の利を懷にして心中得々たるものの如し其他直輸商は自家商畧上爲めにする所ありて其出張店より歐米需用地の實況と相反したる虛誕の携說を傳へ大に内地當業者の胸算を誤らしむると亦少しとせず、以上は余が一身を懺悔の犧牲とし曾て余が直輸貿易に從事せし當時常に商略として行ひたるの一例にして今日より之を想へば慚愧轉た禁ずる能はざるものあり嗚呼如何に虛實反覆其常なきは商海の本態なりとは云ひしかも國家經濟の爲めなりと口にする直輸商(余)にして背戾の行ひある既に斯の如し異性たる外商の横恣豈怪しむに足らんや
前述する如く我蠶業貿易に於て坐賣と直輸とは人の肢躰に於ける兩腕の如く余の眼中に其輕重を見ざるものなり而して人の兩腕は腦府の命令に從つて擧止するものなるが既に此双腕を具ふるの我蠶業貿易にして腦府の欠如ある如き、是れ余が一大恨事として深惜する所のものたり抑も我貿易市場に於ける腦府とは何ぞや蓋し他なし公開市場即取引所の謂ひのみ其効用の細論に至ては余の證言したると已

に幾回なるやを知らず故に敢て茲に喋々を要せずと雖取引所を興立するは恰も咫尺拂ぜざるの濛霧を拂て陽光輝々たるの天地となすものに他ならず其覩易き例を擧れば仲買商は事苟くも蠶業の利害に及ぶべき世界全面に於ける萬般の現象、事相を電、書の通信に依て詳悉明知するとを得是に由て商勢の適從を決し自ら健强持すべきの道に達すべきなり、然りと雖世の通勢として利の存する所は害の之に潛む所以なりとの論法を以て反對を試むる怪者あらん、爾り事の創業に在ては經驗の乏しく、考按の及ばざるもの一にして足らず又裏面には弊患之に伴はざるに非ずと雖假に數字を以て現はせば十中八分の利は僅に其二分の害を以て沒すべきものならざるなり而して主髓の完成すると共に運轉は今日に於ける無臆の趣きと其調を改め或は直輸に或は座賣に一新を促がして事理に副ひ興廢あるべきは自然の勢と謂ふべし夫れ斯の如くして遂に自ら動きて自ら處するの妙理を解するに庶幾からん

用言蠶絲の價格は今を溯ると百五十年前歐洲に在ては英一斤（百二十匁）に付金貨十八九弗を價せし從て其片絲蔚縷と雖苟もせざる程至高至貴の品として珍重せり、然るにもと同品は多孔の物質なるを以て大氣中に潤濕せる水分を吸收すると甚しく故に其水分の量も蠶絲の眞量と混加して賣買したりしが、究理の學漸く其精しきを致すと共に無用の水分も蠶絲と同價を保つの非なるを覺りしかば賣買の正量を立てんが爲め千七百七十九年佛國巴理に生絲檢査所の創設を見るに至れり爾來蠶絲商業を營むの地は其効果を餘として之を採用せざる所なし（佛、伊、獨、瑞、英、米、支那廣東、墺國）蠶業を以て國家の富源と自稱する本邦にして獨り今猶之が建設を見ざるは余の怪訝に堪へざる次第にして今日外商に横恣の口實を攜へしむるも亦宜なりと謂ふべし、是を以て取引法の明判者たる檢査所を設け市場の紛紜を制し弊慣惡例を革釐するは焦急の緊要たるべきなり

◎新潟縣蠶況一斑

新潟縣　大日本蠶絲會通常會員　横田長太郎

編者曰く本編は寄稿後若干月を經たれば或は現況と幾分か違ふ所あるも知るべからず請ふ幸に之を諒せられんことを

我新潟縣に於ける蠶業は概して之を言へば隨分遲緩ならざる速度を以て進歩し發達しつゝあり而して其全躰に於ける智識、技術、生産共に大に伸張せるものあるを見る然りと雖今細かに其實況の如何を觀察するときは其伸張たる吾人の希望とは全く相反せる進路を取るものあるを覺ゆ蓋し斯業現時の伸張は常に其危險と相隨伴して安全とは甚だ隔離し五十歩の進歩は即ち五十歩の危險を伴ひ百歩の發達は百歩の安全と背馳すればなり換言すれば安全の進路に向て伸張するの度よりも危險の途に向て伸張するの度は常に倍蓰の速力を以てせるなり是れ余等が甚だ喜びざるの現象にして特に之を言はんと欲する所以なり

少しく斯業の狀況を察せんと欲するものは容易に其未一般に安全の業務なりと信ぜられざることを認知するを得べし啻に斯く信ぜられざるのみならず蠶業者往々自ら之を不安全の方向に導くの感なき能はずして而も又不安全なるの形跡を事實に表明することすら免れざるものあるは豈亦遺憾ならずや危險の進路に由りて不安全の方面に伸張すること果して斯の如くならんに之が救濟を今日に計ることなくんば斯業の前途豈杞憂を懷かざるを得んや

回顧すれば明治の初年蠶種の需要海外に大なるに方りてや蠶種家は無暗に競爭して輸出を爲し其極一敗復た起つ能はざるに至りたるものは當時の狀勢之をして然らしめたるものなりとはいへども抑亦輕擧躁進自ら取るの罪は決して免れざるなり其餘響は延て今尙存す現時の狀勢は固より之と仝日の談ならざるも或點に於ては轉た之に類せるものあるを覺えざるにあらず

夫れ今日の蠶業は概ね中等以上の農民の腦底に止まりて農民の多數を占むる中等以下の農民に其勢力を及ぼせることの甚だ微弱なるは恐らく獨り我縣に於てのみ然るにあらず新に斯業の興起したる地方にありては寡同一なるべし而して中等以上の農民たる養蠶家の多數は蠶業前途の狀勢を熟察するにあらず唯單に胸算的利益を戀慕して事業の擴張に全力を盡くし蒸溫濕熱を釀し動もすれば些障の爲めに恐慌を惹起するが如き或は蠶業の何たるよを解せず相場師者流の如くに思惟し迷信するが如き或は輕動轉瞰此の如きの迷信をして益々深からしむるが如き或は定見あらざるよりして浮說流言に誑かされ諸種の弊害之に乘ずるが如き或は業に斯に從ひながら他人の左右する所となりて半信半疑を抱くものあるが如き是れ皆以て斯業の進步を障礙する原因にして而して未斯業が安全の業務たるを得ざるの一因たり

讀者諸君諸ふ誓く倦厭を忍んで下に記する所の實況の一二を察し玉はんことを

余は往年中越後に遊び故ありて中魚沼郡蠶絲業組合の經營に係る蠶種購求所（猶蠶種市場と云ふがごとくにして諸方の蠶種家を集めて其蠶種を檢査し合格のものは仝所に陳列して販賣せしめ不合格のものは其販賣を拒絕す而して組合員は必ず仝所に就きて購求するか又は右の檢査證印あるものにあらざれば購求するを得ざるの規定なり大日本蠶絲會員近藤栄太郎氏は現に之が檢査員に列せられたり）に留まる數旬其間見聞したる事實の深く余輩の腦裡を刺戟せるもの少からず當時余が仝所にありて實見せる蠶種四千餘枚中其八九分は所謂信州種にして群馬其他一二地方の產に係るもの其餘を古め地種福島產等は極めて稀なりき當時檢査顧問として招聘されたる某氏は謂へらく其品質の善良なるもの敢て鮮少なりとは謂ふべからざるも概して粗劣に傾くと而して夜付種糊付種の如き敢て珍しとせず其の甚しきに至りては一口百餘枚の名入蠶種にして盡く販賣を拒絕されたるが如き蠶卵溶液は盡く微粒子なりと思はしむるが如き或は原紙の表面に黑線を書がきて傲然框製なりと稱するが如き亦甚だ少からざりき又余は所謂種商人なるものに接見するに眞に蠶種家と稱すべきものは至りて僅少にして其過半は仲買者の如く彼の長野縣地方に行はるゝと聞く貰種師（此は無職業者が蠶期養蠶家の備入たらんことを求め其報酬として製種上廢棄すべき蠶、繭、蛾等を貰受けて以て蠶種を製造し行商をなすものを云ふ語なる由にて余は現時長野縣の某蠶種商にして嘗て之を實驗したることありと云ふ人より親しく其事を聞けり）なるものに少なからざるが如く思はれたり其代價の如きは通常一圓乃至一圓二三十錢なりしも彼商人間實際の取引は百枚二十圓乃至二十五圓のものは上等なりとぞ勿論正當善良なる蠶種家は論外なり當時最も余輩の感觸を起したるものは種々雜多なる掛合種の偽勢甚だ好きと仝地養蠶家の多くは福島蠶種を嫌怖することにして其言ふ所を聞けば曰く福島地方は溫暖育なり溫暖育の蠶種は危險にして好結果を望み難しと知らず現今飼育法の最も適當にして多く採用せらるゝ所のものは彼等が所謂溫暖育なることを以て其蠶種の程度を忖度すべし余は本年北蒲原郡某地に於て仲買者より購求せ

りと云ふ福島蠶種にして最も粗惡なるものを實見せり種類は青熟なりと明記しあるも繭質大小不同名狀すべからず且一割程の黃繭さへも交えたり其蠶兒の狀況を聞くに同じく蛆形蠶等雜多なりしと云へり

幼稚なる蠶業家が挑れも本場種と稱して信を措く所のものにして其實況此の如きものあり余輩は深く本場なる蠶種家の有志に向て之が改良を望まざるを得ず

一日古志郡長岡の有力家渡邊某氏余に語げて曰く本郡の地勢狀況最も能く蠶業に適す然るに其進歩尙今日に遲々たる所以のものは前年一大輸出蠶種家の大失敗を來したることあるに由り其覆轍を踏まざらんと欲するもの實に大原因を爲せりと

聞く某郡某養蠶地方には一鄕今尙蔟飼に甘んずる所あり其故を問へば則ち曰く同地にては曾て某得業教師を聘して改良法を學べり然れども結果は却て吾々祖先傳來の法に劣ること萬々彼れ得業師なるもの徒に口舌に巧みにして毫も實地の事を知らずと意ふに此の如きの弊は敢て此一鄕のみには止まらざるべし

又曾て縣下某地の有志家は縣下に製絲機械工場の設けなきが爲め越後絲の聲價なく從て養蠶家の利益薄きを歎じ之を救はんと揚言して設立したる某工場にして未數年を經ざるに粗製濫造の弊を生じ却て在來の坐繰工場に後を見するが如き失躰を呈せるものありと云ふ

又現時最も改良的進歩を爲せりと稱せらるゝ某郡に於ては全業者間に一種の紛議を釀し縣廳の手數を煩はし今尙治定するに至らずと云ふ

又近時激動せる石油狂熱の如きは沃素驗温器も殆ど測度すべからざる度に達し投機者山師連をして踊躍せしめ農商を作興して未坑脈を發見せざる絲劵すら一時石油の二字を冠せるが爲めに非常の信用を以て流通せりとの奇談さえあり其蠶業に波及せる影響は推して知るべし爲めに經濟社會を攪擾せること少小ならずと云ふ

事躰此の如きものあり其進歩の圓滑なるを得ざる其前途の憂慮なきを得ざる余輩が之を言はざるを得ざるもの豈其故無しと謂ふべけんや

余嘗て我縣の知事籠手田安定氏に面晤して談偶蠶業の事に及ぶ知事謂て曰く縣下の狀況を詳にせざれば施治宜しきを得べからず是を以て余の赴任の際普く縣下を跋涉し略得る所ありたり而して蠶絲の如きは余が見る所を以てすれば今日の狀勢漸く眞正の進歩に向はんとして未なる洵に肝緊の時なり故に一舉其宜しきを制せば以て斯業の繁榮を期すべく若又一歩を誤まらせば之が反對の結果を免るゝを得ば眞に僥倖たらんのみ目下に在りて蠶種及蠶苗の改良の如きは急務中の最も急務なるものなり故に漸を追ひ機を察して之を勸誘奬勵し之を保護錯制し以て適當に發達せしめんことを期せり而して其政策如何の如きは他日縣會に向て之を謀る所あらんと欲すと又各郡蠶絲業組合の如きも從前滿足に施行されたるもの實に僅々なりしが客年四月縣令甲第四十五號を以て之が取締規則を設け制裁を加へられたれば爾後稍々其効を期すべきか此の如くんば余輩が杞憂も少しく慰する所あるべしと雖知らず新潟縣會は果して之を協賛するや否や

統計

◎生絲輸出一年間の統計（自廿五年七月至廿六年六月）の統計

部名	米國へ	歐洲へ	小計
甲九十番	七、八五二俵	四、七四二俵	一二、五九四俵
百九十八番	六、二八八	一、〇四九	七、三三七
同伸會社	三、四六七	二一二	三、六七九
九十五番	五五九	二、九四四	三、五〇三
二百九番	二、三二六	二九九	二、六一五
二番	五四四	一、九三八	二、四八二
三番	四四	一、九八五	二、〇二九
一番	一、二九二	六〇九	一、九〇一
乙九十番	一、三四〇	二三六	一、五七六
百六十四番	—	一、三九七	一、三九七
二百六番	一七	一、一八〇	一、一九七
二十六番	八八六	二〇五	一、〇九一
九十三番	—	九八七	九八七
角八十九番	八四七	二	八四九
百七十七番	二〇	七〇四	七二四
二百番	七一〇	—	七一〇
二百十六番	六四二	—	六四二
二十二番	四一五	—	四一五
貿易商會	一九	三一四	三三三
七十一番	—	三一五	三一五
十二番	一八〇	—	一八〇
百九十三番	—	一四四	一四四
中八十九番	—	一三九	一三九
九十番	—	四	四
二百四十二番	—	二	二
總計	二七、四四八	一九、四〇七	四六、八五五
●比較			
廿四年度	三〇、〇三五	一九、〇〇六	四九、〇四一

廿三年度	一八、三四三	一五、三一九	三三、六六二
廿二年度	二〇、三七七	一、一五、一二八	三五、五〇五
廿一年度	一九、九二〇	二一、三四三	四一、二六三

◎横濱商舘生絲附屬品買收一ヶ年自廿五年七月至廿六年六月表

舘名	熨斗絲	割合	生皮苧	割合	出売其他	割合	合計	割合
二百五番ヤーデン、マゼソン	一四、一六二個	三三、五	四、一〇四瓩	一八、六	三、一七四瓩	三一、八	二一、四四〇個	二八、八
二百九番パヒエル	一〇、二七八	二四、三	四、五九七	二〇、八	一二四	一、三	一四、九九九	二〇、二
九十一番デルチロ	六、八八三	一六、三	一、四九九	六、八	六六〇	六、六	九、〇四二	一二、二
四十七番ジエー、アール、メリアン	四、一三一	九、八	四、七六六	二、六		七	八、九〇四	一二、〇
九十番シバーブレンアールド	一、五四五	三、六	三、六一四	一六、八	一、二九四	一三、〇	六、四五三	八、七
百六十三番シーエマルド	八二七	二、〇	一、八六一	八、四	五〇〇	五、〇	三、一八八	四、二
二番ウリスピラ	二、七三八	六、四					二、八二四	三、八
百四十三番フレサーフアレー						八六	〇、九	三、八
三番ロビソン	五六一		一、五五六	七、〇	三八一	三、九	二、八〇六	二、八〇六
百六十八番ヴィヴアンチブラザー	九二五	八八					二、四九八	三、三
二十六番ケリフイン	一八九	四、一		四、一二	四、一		一、四二五	一、九
二百六番其他	三七		一六	一、〇	四八四	六七三		
					五、〇	九一		一、一
					三八	〇、四		
總計	四二、二七六	一〇〇、	二二、一〇二	一〇〇、	九、九六六	一〇〇、	七四、三四三	一〇〇、

◎七月中生絲屑物輸出數量元價及收税統計

種目	數量	元價	收税
生絲	一二八、九五〇斤	一、〇五七、七二八、八七〇円	三一、〇二四、六九六
玉絲	—	—	—
熨斗絲	一八、九八七	一五、七〇八、〇五〇	四五七、九〇二
屑絲	一二、〇六八	一〇、六二四、五四〇	八七、一五二
繭	—	—	—
屑繭	—	—	—
眞綿	一七	四五、〇〇〇	一、一〇九
屑眞綿	六、五七四	八、二七〇、〇〇〇	四一三、五〇〇
計	一六六、五九六	一、〇九二、三七六、四六〇	三一、九八四、三六〇

◎七月中絹布類輸出數量及元價統計

種目	數量	元價
羽二重	七、六五九反	一四三、一八六円四〇〇
他ノ諸絹類	二、一四二	二二、六六六、五八〇
絹綿布類	四三五	二、三三八、二二〇

絹布手巾　一四九、三七八打　三二四、〇八五、〇八〇
絹製品類　一〇、二三六反　六〇、二三七、五五〇
計　一四九、三七八打　五五二、五一三、八三〇

◎八月中横濱生絲手合高同最高價格及外國爲替相場表

日	種目	手合高	手合最高價格	外國爲替相場		
		製絲場名	價格	倫敦參着	里昂參着	紐育參着
一日	二百三個	三州細谷器械(細)	九百六十弗	二志五片二分ノ一	三法十參	六十弗
二日	二百八十四個半	美濃大垣器械(細)	九百五十弗	仝	仝	仝
三日	五百七十三個	信州信陽館器械(細)	九百五十弗	仝	仝	仝
四日	二百五十三個半	信州信央社器械(細)	九百二十弗	仝	仝	仝
五日	三百五十二個半	羽前多勢組器械(細)	九百二十弗	仝	仝	仝
六日	休					
七日	二百六十五個	江州住友製絲場器械(細)	九百二十弗	仝	仝	仝
八日	二百七十八個	飛州墨縄社器械(細)	八百八十五弗	仝	仝	仝
九日	三百二十一個	美濃開祥社器械(細)	九百弗	二志五片八分ノ五	三法十一參	六十弗二十五仙
十日	三百十八個	常州石岡器械(細)	八百九十弗	仝	仝	仝
十一日	四百三十一個半	美濃開祥社器械(細)	八百九十弗	仝	仝	仝
十二日	百七十個	信州長野製絲場器械(中細)	八百五十五弗	仝	仝	仝
十三日	百〇七個	信州鶴上社器械	七百三十弗			
十四日	五百四十五個半	野州大簡製絲所器械(細)	九百弗	仝	仝	仝
十五日	五百三十四個半	信州太陽社器械(細)	九百弗	二志五片二分ノ一	三法十參	六十弗
十六日	五百五十五個	羽前富貴田器械(細)	八百九十弗	二志五片四分ノ一	三法八參	五十九弗五十仙
十七日	三百七十七個	相州甘利器械(細)	八百三十五弗	二志五片八分ノ一	三法七參	五十九弗二十五仙
十八日	四百十個	信州太陽社器械(細)	九百弗	仝	仝	仝
十九日	三百八十三個	美濃野呂器械(細)	九百弗	二志五片四分ノ一	三法八參	五十九弗五十仙
二十日	休					
廿一日	四百六十九個半	美濃可兒製糸會社器械(細)	八百八十五弗	二志五片八分ノ三	三法十參	六十弗
廿二日	百八十一個半	若州小濱製絲會社器械(細)	九百弗	二志五片八分ノ五	三法十三參	六十弗五十仙
廿三日	六十五個	相州漸進社器械	六百六十弗	二志五片八分ノ七	三法十五參	六十一弗
廿四日	二百三十八個半	信州協精社器械(細)	七百七十弗	仝	仝	仝
廿五日	二百九十九個半	羽前多勢社器械(細)	八百八十弗	二志五片八分ノ五	三法十四參	六十弗
廿六日	二百五十六個	信州伊奈社器械(細)	八百二十弗	仝	三法十一參	仝
廿七日	休					
廿八日	五百十七個	羽前聚松軒器械(細)	八百七十五弗	二志五片八分ノ三	仝	六十弗五十仙
廿九日	二百五十一個半	羽前多勢組器械(細)	八百七十五弗	仝	仝	六十弗
三十日	百四十八個	美濃信勝社器械(細)	八百七十弗	二志五片四分ノ一	三法十參	五十九弗七十五仙
卅一日	五百八十九個	信州明進社器械(細)	八百十弗	仝	仝	仝

〔備考〕八月中生絲の絲況は前月より引續き沈靜に保ち中旬の頃よりして其價格は徐々低廉の一方

に傾き佛國向き細筋は絶えず弗々賣行きありたれども米國向き太製は彼の銀塊問題に相場を遮斷せらるゝと金融不活潑とに由り捗々敷取引なく斯る有樣なれば月末には在荷も嵩みて一萬數千個の巨額に達し先行きの心配掛からざるよりして人氣は賣あせりの模樣を現はせり之を要するに終始不振の商狀を以て一ヶ月を經過せり

●問答

◎蠶其他に關する質問

茨城縣　大日本蠶絲會員　岡本藤吉

(一)蠶の桑葉を食するや營養に依て血液に化すと然らば桑葉を食して血液に化する迄何時間を要するや但し溫度の高低に依るべけれども

(二)春蠶蛾と夏蠶蛾を掛合せ其年の夏に發生せしむる法如何

(三)種油滓を桑樹の肥料に用ふるに石灰質なき土地には更に効なしと云ふ說あり果して然らば粕拾貫目に要する石灰の量如何

(四)熟蠶を水にて洗滌すれば繭の光澤美にして二重繭少く且つ結繭速なりと其理由如何

(五)二重繭の生ずる原因如何

(六)桑園耕耘及施肥の好時期及其季節により如何なる成分を含有する肥料を施して可なるや

(七)天牛虫の驅除法を問ふ

(八)蠶室内の炭酸瓦斯を量る便法を問ふ

(九)風無く寒からず薄曇りの日に蠶室を閉ち置くときは惡臭を生じ蠶兒に不快を感ぜしむるとあり此時蠶室内の空氣と室外の空氣を交換するは如何にすべきや且又室外の空氣濕りたるときは如何にすべきや

(十)桑樹老幼により蠶種の色澤を異にすと云ふ說あり果して然りとすれば其色澤を見分る方法を問ふ

(十一)收繭の時蠶卵紙を裏面より打落すときは其翌日發生する蠶に害ありと考ふ若し害ありとせば他に收蠶の良法を問ふ

大日本蠶絲會員技藝委員　松永伍作

答

(一)溫度高きときは食桑の消化速にして低溫のときは之に反す然れども幾度の場合には何時間にて消化するやは不分明なりとす

(二)春蠶の雄蛾と夏蠶の雌蛾とを交尾せしめたる蠶卵は概ね夏季發生するものなり

(三)種油滓を石灰質なき土地に栽植せし桑樹の肥料に施して効なきにあらず然れども石灰を含有せる土地に比すれば幾分か效驗遲緩なるが如し故に幾分の石灰若くは木灰を混合して施せば其効驗速なりとす

(四)熟蠶を洗滌すれば其蠶躰に附着せる汚物を除くが爲め繭の光澤美なるが如し而して二重繭の多寡結繭の遲速には敢て差なきものと考ふ

(五)繭層に空隙(俗に二重繭と云ふ)を生ずるものは營繭を中止し其間に既製の繭乾燥するが爲めなり

(六)桑園の耕耘施肥の季節は土地の氣候若くは習慣に由り差異あれども概して春三月頃夏六月(養蠶の爲め摘葉後)秋落葉の頃、及冬季の四回とす而して施肥は春發芽より凡そ一ヶ月程前及桑葉摘取後の二回とし施肥の季節に由り肥料の性分を異にするの要なきものとす

(七)天牛虫を驅除するには夏季土用頃より九月上旬頃迄の内朝露の未乾かざる前桑園を廻り捕殺し其と同時に該虫の產卵(桑條の皮か食し尙材部を咬碎きたる部分)の部を伐取るべし又既に幹中に食入りたる子虫(俗に鐵砲虫と云ふ)を驅除するには其虫の幹中に棲息する上部にある孔より石炭油を注入すべし

(八)蠶室内の炭酸瓦斯を量る便法を知らず

(九)蠶室の空氣を交換するには室内に於て焚火をなすべし

(十)蠶兒飼育に用ふる桑樹の老幼に由り其繭を以て製したる蠶種の色澤に幾分差あるものにして老樹は色澤稍美にして幼樹は之に反す

(十一)收繭の際蠶卵紙の裏面より打落すも殘れる卵に著るしき害をなさゞるものゝ如し

◎桑樹及「ウミコ」に付質問

埼玉縣　大日本蠶絲會員　矢作增三

(一)桑樹萎縮病の原因發生期及豫防法如何

(二)「ウミコ」の腹中には寄生物ありと云へり此寄生物は動物なるか或は植物なるか如何なる性質を有せるものか又其形如何及如何して其物を見得らるゝか

答

大日本蠶絲會員　技藝委員　練木喜三

(一)桑樹萎縮病の原因は今尙探究中に屬す然れども健苗を撰び底掘を深くし疏水を便にし雨中の刈採を忌み刈採の際根をして動搖せしめざるが如き普豫防の一法なるが如し發病期は桑條刈採の後にあり早きは栽植後三四年乃至六七年遲きは十數年を經て始て發病す罕には栽植の翌年若くは數十年の後に發するとあり

(二)「ウミコ」の血液中にありて六角形をなす顯微鏡にあらざれば認め難し性質は未詳ならず

外報

◎紐育生絲及絹物商況

本年五六の二ヶ月間紐育に於ける生絲及絹物の商況に附き同地駐在帝國總領事島村久氏より過般兩度に其筋へ左の報告を爲したり(大日本蠶絲會報第十三號外報欄内參看)

生絲　五月中歐洲市場に於ては絲況甚だ活潑の狀を呈し隨て價格は更に騰貴せり而して同市の機屋は多量の買收を爲せしのみならず投機商に於ても亦多額の買占を爲せり但し當國絲市に於て歐洲絲市の如く商況活潑ならざりしは天候の不順と理財の難況なるとに依り絹帛及絹紐の販路に妨害を與へたるため絹物の市況豫想よりも稍〻不滿足の甚況なりしに職由せり加之伊太利及東洋養蠶國の新絲の收穫は甚だ好望なりとの報知に接し消費者は必需の外甚だ買收を嫌ふに似たり但し其好の伊太利及日本絲の價格は可なりに維持せしに拘らず中等以下の品種は下落の傾向なり一週間以來の電報に據れはミラノ及里昂の兩市に於ては生絲及撚絲の價格甚しく下落せしことを報道せ

り而して該絲價の下落は稍〻當市の絲況に影響し需要一般に甚だ減少せり但し本月間當市に於ける各國生絲の相場は時々邊報に記載するを以て茲に之を贅せず

絹物　內外國製絹物の商況は大略左記の如し

內國製　五月中內國製絹物の取引は可なり活潑の狀況なり但し機屋は稍〻上騰の價格を以て衣服地に十分の注文を受けたるに拘らず倘ほ絹帛の市況は不景氣なりし試に各種に就きて其商況を分說せば衣服地絹物及繻子は品種に依り前月來の市況を維持するものあり又稍〻不好況のものあり絹紐は天候の不順に拘らず最好景氣を現せり手巾及襟卷は非常に不振の狀況なれども秋季に向へば市況回復するならん

外國製　五月中外國製絹帛の取引は隨分多額なりし而して本年春來の輸入額甚だ多きに拘らず市場の在荷は現時の需要に對し決して過多ならざるなり故に當市の絹商は歐洲に向け特に衣服用絹地及天鵞絨に關し許多の注文を發せり而して其注文品價格の如きも前月（四月）の初旬に比し稍〻高價なりき而して繻子類は前月來絕えず滿足の市況を呈し買客甚だ多し絹紬、羽二重等も亦需要甚だ少からず絹紐の取引は寧ろ活潑の狀況なりし但し摸樣付絹紐は較〻沈靜の狀況なり米國絹業協會月報に據れば本年四月中當港絹製品の輸入元價は二百七十五萬三十三弗にして之を前月（三月）に比すれば百五十九萬二千二百三十七弗を減じ前年四月に比すれば六十九萬三千百八十六弗を增し又前々年四月に比すれば六十一萬五千九百五十八弗を增せり即ち左の如し

又四月中紐育港絹製品輸入元價を以て前二箇年同月に對照すれば左の如し

貨名	二十六年四月輸入元價	二十五年同月同上	二十四年同月同上
絹布	一三八二四五	九〇三二八	八四五三五
繻子	一六二九五	一五六五五	一五六七一
縮緬	一九〇三六	一四五七	一九〇七
組紬	—	—	—
切毛天鵞絨	一五七二六	六六四八	一四〇二一
天鵞絨	一〇三四二	六六五四	一六三八五
組紐	一〇四一六	六九四一	六九一六
小絲	三一〇六一六	四四〇二四	三一九六九
肩掛	六四六	一二六九	六五五
手袋	一九六三	一九六三	六六六

又同會月報に據れば本年四月中紐育及太平洋沿岸各港生絲の輸入額は左の如し

紐育港	數量	元價
生絲	六四三	六七六三
屑絲類	九一	二九二四

太平洋沿岸各港	數量	元價
生絲	一九七	九六三六三
計	三六五一	一六三九六一

（備考）太平洋沿岸各港輸入高は種類の區別なきを以て單に之を生絲と記載せり

（以上六月六日附報）

前報後生絲の價格は更に一層の下落を顯し今や伊太利絲十二乃至十六「デニール」の各種は每基十法乃至十一法を下落せり而して伊國ロムベルデに於ける此種即ち專ら米國市場の需要に係る製絲

貨名	二十六年四月輸入元價	二十五年同月同上	二十四年同月同上
襟飾	七九六	一〇六二	一七七九
手巾	四二三三	四三〇四	四三〇八
靴下	四六六六	一六七八	一一九七
絹絲及織絲	四六六九	四六六九	七七六九
絲地及絹絲	六七四二	四三九五	六二七三
絹毛交織物	三一七四	一三〇六九	七三一四〇
絹棉交織物	三六三七	二六四二	三六八九
織麻交織物	一八四〇	一二八〇一	四四〇六
計	三一六〇〇三	二〇六六四七	三一二四〇五

家は米國より通例の注文到來せざるに由り殆ど荷嵩みの狀況に陷れり而して金融澁滯の狀況は該製絲家所有の生絲賣價をして「クラシカル」絲六十三法、最上一番六十一法に下落せしめたり

然れども歐洲向特別細絲は米國向太絲の如く弱氣配を顯出せず尙ほ目下上騰の勢向なり而して伊國の新絲は再び支那絲の大に需要せらるべき傾向あるに隨ひ幾分の下落を惹起せり但し此狀況は伊太利絲のみならず即ち日本絲に對して均しき影響を生ぜり

當紐育市の生絲取引は非常に緩慢なり是れ絹布及絹紐の商況甚だ不振なると銀價異常の下落より起因せる金融必迫の結果との二因に由る

生絲輸入商及餘蓉の開えある數家の機屋に於て所有貨物の處分を要する時期に切迫したるの事情は生絲をして甚しき不定の價格を誘致せり但し絲價は多日を出ずして回復の望あるべきに似たり

今や歐洲及支那新絲の成果に關しては疑惑の容るべきなし日本絲は少くも五萬梱の輸出あるべき狀況なり或る豫算に據れば日本絲の收獲は五萬五千梱に及ぶべしと云へり

是に由りて之を觀れば本季節世界の產絲總額は前季節に比し殆ど一割の增加なりと云ふべし伊太利に於ける新繭は前年に比し低價を以て開市し四法四分の一乃至五法なりし但し佛蘭西の養蠶家は新繭の品質及產地に隨ひ五法四分の一乃至五法半の好價を得たり而して新絲の品質は眞好なるべしと云へり

本月中當市の絲價は時々週報に記載するを以て茲に再述せず

米國絹業協會月報に據れば本年五月中紐育其他太平洋沿岸各港生絲及屑絲の輸入高は左の如し

	生絲		屑絲類	
紐育港	數(梱)	價(弗)		
	四一〜五六八、七六三		一四四〜二九、七三七	
太平洋沿岸各港	數(梱)	價(弗)		
	二四七四〜一、二九九、〇一五		三〇〜一三、三八四	
計	數(梱)	價(弗)		
	二八八九〜一、八六七、七七八		一七四〜四三、一二一	

又同月報に據れば本年五月中紐育港絹製品の輸入元價總計二百六十三萬七千四百十九弗にして前年同月に比すれば四十萬四百六十三弗を增加し又前々年同月に比すれば五十一萬三千五百四十三弗を增加せり今之を各種の絹製品に區別し其增減を細示せば左の如し

五月中紐育絹製品輸入元價前兩年同月比較

貨名	本月輸入元價	前年同月輸入元價	前々年同月輸入元價
絹布	一、一八六、四七八(弗)	九一六、三〇〇(弗)	七七一、六五六(弗)
繻子	二二、七〇一	一六、三六九	三九、五五七
縮緬	四九七	三、九九六	一四、二〇三
絹紬	—	二、四五四	七四一
切毛天鵝絨	一五、九七〇	一〇、〇八〇	三二、三九五
天鵝絨	二三五、四三四	七八、七二二	一四九、六五八
絹紐	一四五、一八三	一一八、一八七	七九、六五九
小綾	二六九、五五六	三三〇、三六九	一八五、一一二
屑糸	二、二九二		五、〇六六

手袋	二〇、九〇二	一九、八九五	一三、一三二
鞠飾	二、九五二	一六、一四四	二一、三五九
絹手巾	一七六、八二三	一八三、九八〇	一一七、九五六
靴下	三七、六二七	二五、一二四	七、七五一
純絲及機絲	七七、一九〇	六二、〇三〇	八六、九三七
絲塵及絹絲	六五、五五四	六〇、一二七	六二、九一五
絹毛交織物	一九、三四三	二九、一二二	三五、三四六
絹綿交織物	三五七、五九八	三五九、二四四	四九七、二七三
絹麻交織物	一、三一九	四、一五九	三、一六〇
計	二、六三七、四一九	二、二三六、九五六	二、一二三、八七六

而して本月中絹物の商況は左の如し

內國製絹物　の取引は生絲の市況一定せざると米國一般に金融の狀況不滿足なるとに由り稍〻減少せり但し多數の機屋は相應の注文を受けたれば今後當分の間充分に機業を運轉するに足るべし

外國製絹物　輸入絹織物の取引は一般商況の不活潑に感動して減少したれども金融の回復に隨ひ本品の市況は直に回復すべきに似たり

（以上七月十五日附報）

◎生絲及絹布に關する調査

曩に農商務省に於て既往五年間本邦重要輸出品增減及沈滯の原因に關し調査報告を徵されしに此程在上海帝國領事林權助氏及在紐育帝國總領事島村久氏より左の報告ありたり

○上海領事報告

舊絲取引季節の終局と新絲取引季節の開始　當港に於ける舊蠶絲取引の季節は五月三十一日を以て略〻其終を告ぐるに至れり今茲に昨年六月一日より本年五月三十一日に至るまで一周年間即ち前取引季節間の商況を略言せんに該季節中諸外國に輸出したる生絲の總額は七萬六千八百九十梱にして內白絲六萬二千四百五十八梱、黃絲八千八百十一梱、野蠶絲五千六百二十一梱なりしが之を前々季節に比較すれば總額に於て五千三百六十三梱を增加し實に近年稀なる多量の輸出と謂はざるべからず而して斯の如く生絲輸出の盛なりしは其源由種々あるべしと雖も之を要するに前季節中は歐洲諸國に於て著しく絹織物の流行したるがため之が原料たる生絲の相場歐米市場に於て一般に騰貴したるのみならず金貨に對する銀貨の相場非常に下落したるに依り歐米金貨國の買主は假令ひ歐米市場に於て生絲の相場例年と異なることなくとも當銀貨國の生絲に對しては例年よりも多量の銀貨を仕拂得るの割合なりしを以て當港生絲の相場は自然に上進を來し其相場の上進は即ち大に生絲の輸出を奬勵したるものとす佛國里昂より到來せる最近の報知に據れば本年四月に終る前十二箇月間同處に於ける生絲相場の騰貴は特に甚しく歐洲產及本邦產機械絲は六割、廣東機械絲は三割五分乃至三割方上進せりと云ふ又倫敦市場に於ては同期間に七里絲一封に附き二志の上進にして即ち邵玉峯の如きは一封に附き十一志九片より十三志九片まで騰貴せり然るに前季

節の終に方り歐米諸國の織屋は相變らず織絹に忙しきと共に生絲の不足を感じ居りしが故に新絲買入の豫約を取結びつゝある有樣各地とも同一なりしと聞けり而して尙ほ當地に於ても昨年の產出高一昨年に比し二割方多量なりしも歐洲諸國織屋の需要を充すに足らざりしを以て既に新絲賣買の豫約濟と爲りたる高も少からずと云ふ

七里絲　前季節開始の時即ち昨年六月上旬にありては七里絲の內金麒麟の相場は一擔に附き二百九十七兩五匁乃至三百兩、揚吉豐は三百二十五兩乃至三百二十七兩五匁にして金銀相場は上海銀一兩に附き其貨四志四分の三片なりしが當時は右の相場にて可なりの約定出來たりしも其後間もなく同月中旬頃に至り一日商況不味と爲り金麒麟は一擔に附き二百七十二兩五匁、揚吉豐は三百五兩まで下落せり然るに其後取引は次第に增加し相場は殆ど間斷なく上進し昨年九月の末には金銀相場上海銀一兩に附き其貨三志十片四分の三に下落し金麒麟は三百五十兩、揚吉豐は三百九十兩までに騰貴したりしが當時歐洲への輸出は既に三萬五千梱に達し一昨年の同期よりは一萬三千五百梱を超過せしも斯の如く該季節の初期に方り急に多量の生絲を歐洲へ輸送し同市場を充滿せしめたるがため却て當地の市場は一時全く不振の商境に陷りしが翌十月の末に及び漸に輸送したる荷物は既に消費し終りたるを以て漸く其景氣恢復し相場は稍〻下落したるにも拘らず相應の取引行はれ昨年今末に至るまで歐洲への輸出高凡そ四萬五千梱に達したり然るに本年二月に至り當國產生絲の殘額僅少にして迚も外國消費者の需要を滿足せしむるに足らざること明瞭と爲り需要者は殘荷の買入方に競爭するに至りしを以て舊絲の殘荷は間もなく拂底を告げ本年四月末より五月の始に掛け新絲の豫約を濟せたるもの五千梱乃至六千梱に達し其相場は金麒麟一擔に附き三百七十兩乃至三百九十兩なりしが五月下旬に至り本年は例年よりも頗る多額の產出あること一般に知られたるを以て豫約の相場日々下落し昨今は三百五十兩內外と爲れり

粗絲　白絲の內粗絲は前季節中寧ろ望手尠かりし方なりしも相場は上等品の騰貴に連れ季節の末に於ては其始に比し多少上進せり

黃絲　前季節中黃絲の上等品は賣行頗る宜しく山東及棉州產は開市後間もなく品切と爲り粗絲も兩部亞細亞に向け多少の輸出ありたれども前々季節の終りに於けるよりも相場却て下落せり

機械絲及復紡絲　米國へ向け輸出したるもの前々季節に比し八百梱を增加し里昂行も亦相應に增加せり前季節の終に於ける相場は其始に比し一般に百四十兩乃至百七十兩方上進せり

野蠶絲　下等品は賣行頗る悪しく上等品は產出少く價格も割合に高かりしを以て格別の取引行れず

前季節の輸出高は前三季節に比し僅に其半額位なり

舊絲殘荷　前季節の終に於ける舊絲の殘荷は合計千百梱にして其內白絲五百梱、黃絲三百梱及野蠶絲三百梱なりとす之を前々季節の終りに比すれば千二百七十梱を減ぜり

本年五月三十一日に終る一週年間當港より諸外國へ輸出したる生絲の數量は前にも述たる如く合計七萬六千八百九十梱にして今其國別及種類を擧ぐれば左の如し

	英國	佛國及歐洲大陸	米國	印度及埃及	新嘉坡及海峽諸國	合計
白絲	二、九七六梱	四六、六四二梱	七、七六二梱	三、四三九梱	一、六三九梱	六二、四五八梱

黄絲	—	五、二七二	—	三、二二三	三、一七
野蠶絲	一五七	五、一〇五	二四九	一	一〇九
合計	三、一三三	五七、一〇九	八、〇一一	六、六六二	二、〇六五

又右一週年間の輸出高を前五箇年に對照すれば左の如し

	明治二十五年六月乃至本年五月	同二十四年六月乃至二十五年五月	同二十三年六月乃至二十四年五月	同二十二年六月乃至二十三年五月	同二十一年六月乃至二十二年六月	同二十年六月乃至二十一年五月
英國	一二、一三二梱	七、八六九梱	九、一四三梱	一〇、四〇九梱	八、五六五梱	八、九一四梱
印度其他歐洲大陸	五七、〇一九	四九、三二三	四九、〇三七	五一、五〇五	四〇、九三〇	四一、四七二
米國	八、〇一一	七、〇〇九	六、三六四	七、三六七	四、七八四	三、八六一
印度及埃及	六、六六二	五、五七二	四、四四三	三、三一四	二、四二一	三、〇一六
新嘉坡及沿海諸國	二、〇六五	一、七五四	一、四三五	一、六〇〇	一、六〇〇	一、八四五
合計	七六、八九〇	七一、五二七	七〇、四二二	七四、二〇〇	五八、三〇〇	五九、一〇八

右の表に據れば當港より輸出する生絲は佛國及其他歐洲大陸行最も其多分を占め且つ追年增加の傾向あれども英國及米國行は割合に少く特に英國行は漸次減少の姿なり

新絲の見本は五月二十九日に至り七里絲の生産地より當市場に現れ其後引續き毎日多少の著荷あり當新季節中に於て外國に輸出することを得べき生絲の見積方に附きては人々の見込に依り多少の相異あれども昨年より增加すべきは疑なきが如し春季の收穫のみにても昨年の一割は確に增加すべく尚ほ此後夏季の收穫も相應の良作なるべしと云ふ又白絲の輸出高は六萬七千乃至七萬梱許の見込なり

本年六月一日に終る一週間に於ては未だ格別に新絲の取引はなかりしも其豫約高は同日までに既に六千五百梱に及べり當時の相場は七里絲の内金蟻鱗一擔に附き三百五十兩抗州絲の内蘭瓶二百八十兩なりしが同月七日に終る一週間に於ては一千梱許の取引行はれたりしも相場は一擔に附き孰も五兩方下落せり右の内七百梱は七里絲にして其他は抗州絲、大蠶絲及黄絲等少々つゝ取引あり機械絲も極上等物一擔に附き五百二十兩の相場にて少々許取引ありたり

新季節の始より六月七日に至るまでの取引高在荷高及著荷高を前二季節の同期に對比すれば左の如し

	當季節	前季節	前々季節
取引高	八、〇〇〇梱	一、〇〇〇梱	一、〇〇〇梱
在荷高	二、〇〇〇	三、〇〇〇	二、〇〇〇
著荷高	四、〇〇〇	四、〇〇〇	三、〇〇〇

（備考）此表中取引高の内には豫約高を含み在荷高及著荷高の内には舊絲をも算入せり

又當季節の始より六月七日までの輸出高を前二季節の同期に對比すれば左の如し

	當季節	前季節	前々季節
英國	一二五梱	一五梱	二一一梱
佛國其他歐洲大陸諸國	一二五	一七七	三三三
米國	一〇二	一六六	一六
印度及埃及	一七五	—	一四
新嘉坡及沿海諸港	三〇	四二	三七

合計　四三二　四〇〇　六一一

紐育總領事報告（節錄）

生絲　北米合衆國に於ては織物工業逐年增進し就中絹織物業は最も著しく進歩し從て其原料たる生絲の需要年一年より多きを加ふ今當國絹業協會の調査に據れば五箇年間各外國より紐育及太平洋沿岸諸港へ輸入の生絲數量及元價は左の如し

	數量	前年比較增減	元價	前年比較增減
二十年（同）生絲屑絲	三三、八六六（俵）四、一〇一		二二、五七一、六七四（俵）六四、九、五五〇	
二十一年（同）同	三八、八五六（俵）五、二六六	增	二二、九一五、三六九（俵）七四一、九二九九	增
二十二年（同）同	四二、六一七（俵）五、六〇六	增	二三、四二七、五一二（俵）九四〇、五三五	增
二十三年（同）同	三一、九四三（俵）五、五〇一	減	一七、八三二、八四二（俵）一、二二〇、八二五	減
二十四年（同）同	四七、六三八（俵）五、〇六七	增	二四、八七五、七一七（俵）七一、九六三	增

（備考）太平洋沿岸諸港輸入とあるは亞細亞各港より輸入し重に紐育に再輸出せしものに係る又前記各港の外全國諸港へ輸入の總額は今之を知るに由なしと雖も蓋し少額なりと云ふ

右の表中特り二十三年當國絹業恐慌の時を除き其他は逐年輸入著しく增加せり更に之を輸出國に區別すれば左の如し

輸出國名		二十年	二十一年	二十二年	二十三年	二十四年
日本ヨリ	數（俵）	一六、四一七	二二、八二九	二三、三三四	一三、五〇六	二七、五五二
	價	一二、八五三、三九九	一二、三九一、九二三	一三、一一一、八七二	一、二二二、二七四	
上海ヨリ	同	五、〇一二	四、五八四	五、五五二	七、四六二	
	同	二、五八五、八七三	二、八八六、八五〇	二、九六七、二五二	二、三八一、八六〇	二、四七九、七五六
香港ヨリ	同	六、七〇七	四、二〇〇	六、三六六	六、六七〇	六、八三〇
	同	二、四九七、九八二	一、三三〇、二九四	二、〇五九、七三八	一、九五四、七八五	二、一〇七、九〇三
歐洲ヨリ	同	五、三三六	六、九八四	六、二九九	五、七八一	
	同	五、四五一、九八二	六、一五七、五九四	五、二四四、四〇四	五、九五六、五二五	四、八五九、二三二
同上再輸出	亞細亞絲（同）	三九五		一、二二二	一三	
	同	一、八二、五〇七	一、四八、七〇八	四四、二四六	一、九二一	六、五五二

前掲の如く他國絲の輸入は年々伸縮を免れずと雖も我生絲の輸入に至りては特り二十三年を除き逐年著大の增進を示せり是れ蓋し我絲色の純白及其練耗少き二大美質の他國絲に超越し大に當國の需要を博せしに因る但し其增加の原因は全く當國絹帛の需要年々增加するに由ると雖も二十三年十月「マッキンレー」關税規則の施行は間接に生絲輸入の奬勵と爲りしことも亦大に與て力あるに似たり

當國に於ける將來生絲の需要如何に就き既往に照して之を推考するに當國絹帛の流行は漸次增進して殆ど底止する所なきが如き狀況なるを以て生絲の需要は益々多きを加ふるも決して減ずることなかるべし既に昨二十五年の如きは未曾有の盛況を呈し輸入數量三萬二千四百五十五俵、元價二千二百九十七萬七千二百八十八弗の多額に達せり而して他國に於ては織絹悉く機械に由るもの

なれば需要は常に上等絲にあるを以て本邦上等絲の需要は益々增進すべき狀況なり此際若し本邦製絲家に於て當國の嗜好を顧みず漫に粗製の絲を輸送する如きあらば貴重なる當國市場の愛顧信用は遂に他國絲の有に歸するに至るべし

絹布　近年當國に於ては絹布の流行漸次隆盛にして其用途は單に衣服のみに止らず室內及其他百般の裝飾に需要せらるゝを以て其輸入年一年より增加を示せり而して本邦より輸入の絹布は重に羽二重にして縮緬等の如きは實に僅少殆ど數ふるに足らず抑々本邦製羽二重は既に支那及歐洲製絹布の用途を奪ひ其需要每年三割の進度を以て增加せり是れ蓋し他國製の絹布に比し用途の廣きと價格廉にして且つ秤量の輕きとを以て頗る當國人の嗜好に適せしに因る但し逐年輸出の增加するに從ひ漸次粗薄の物品市場の多數を占むるに至り隨て羽二重一端の重量當初は十三匁を以て本量と爲せしも今日にありては十匁を以て本量と爲すに至り價格も亦大に下落せり元來當業者の通弊は甲種の品一回高價に逢へば即ち其一品を製造し競ひて輸送するがために市場忽ち供給過多の狀況を現し遂に需要者の厭倦を惹起せしむるに至ること是なり是等は當業者に於て宜しく販賣市場の時好を洞察し精良の品種を輸出し益々名聲を博取することに注意せざるべからず是れ特り既得の好況を維持するに缺くべからざるのみならず將來販路の擴張に於ても亦頗る須要なることを知らざるべからず

●雜報

◎蠶種組合

凡そ何の事業に論なく之が改良發達を圖るは共同事に從ふを以て最も捷徑とす而して其方法は種々あるべしといへども組合を設くるより便且つ善きはなし開く伊太利國には一の蠶種商ありて組合を設け其仲間のものには尋常養蠶費用の外に若干の補助金を與へて十分鄭重に飼育せしめ組合員一同より其成繭を持寄りて就中最も精良なるものを撰擇し以て製種用に供し他は繭にて悉く賣却す故に組合員一同に良品を得むと欲するの念慮を養成して而して自家製造の繭他家の產に劣るを知れば己自ら退讓して組合中の最も精良品を製種用に推撰するを以て改良は著々行はれ又販賣係の設けありて何の處にて製造したる蠶種は何の地の飼育に適し或は某の地方には如何なる氣候の關係よりして如何にすれば豐作を得る等の事を常に調査し其土地に適應するものを撰びて販賣するが故に年々凶歉の患少しとの事なるが本邦にても福島縣安達郡新殿村外五ヶ村に於ては當春一の蠶種改良組合を設けて組長、副組長、幹事、會計、世話係等の役員を置き專ら計畫する所ありしかば忽ちにして加盟者は一百餘名に達せり既にして蠶兒掃立の前後より各役員は組合內を巡回し蠶兒の强弱、氣候の變換、蔟座の乾濕、桑葉の良否等の事に就て家每に注意を與へたれば安齋某を除く外は皆十分なる結果を收めたり而して安齋の失敗とても蠶兒二眠起の際に誤りて火力を强盛ならしめたるの致す所なればとて組合員は之を憐み各

自蠶兒を分與したるが爲め六百枚以上の蠶座を取扱ひて眞好なる成繭を得たりと聞く同業者共同して事に從ひ組合を設けて互に相救助し以て蠶業の改良發達を圖るは實に賀すべく又喜ぶべきことにこそ

◎風穴蠶種の被害に就て

長野縣下に於ける風穴蠶種被害の重なる原因は温度の劇變と濕氣の多量なりしが爲めなりと云ふ左に信濃毎日新聞の記する所を節錄すべし

被害の風穴は十箇所にて實地見聞の景狀は各風穴何れも同一にして左の如し

蠶卵内容物乳白色を呈し卵の中心微細なる黑點を印し全く腐敗せり○被害蠶種は其害全紙に渉らず一部分若くは各所に點々散在す○蠶卵の大小及發生の遲速に依り比例せば卵粒の大なるもの又發生の遲きものに死卵少し○種類及名稱に付き比例すれば夏蠶にて達付たるもの又は變種掛合等は害少く秋蠶を以て達付せるもの多く白龍中榮等は害少く萬平龍馬等に多き傾きありと○蠶種を寒水に浸し其浴水の乾否に因り比例すれば乾きたる方害少し○貯藏器即ち紙袋若くは箱等の組製に付き驗すれば精の方に害少し○入穴の遲速に由れば遲き方害少し

又死卵の原因に付き或當業家は左の說を爲せり

第一温度の關係　凡て蠶種は華氏五十度以上の温度に滯れば孵化の兆を示すものなれば寒暖其宜きを得ず或日は五十度以上に上り或日は三十度内外に下る如きことあらば蠶卵に害を與ふるは當然なりとす然るに本年の如きは春來不順にして其不平均なりしは全く是が原因をなせり

第二濕氣の關係　濕氣は凡て動物の害物なれば本年の如き濕氣ありしときは濕氣を帶べる大氣穴中へ入り穴中の大氣を腐敗せしめたり而して其例證を求むれば重に此害を受けたるは軟弱なる蠶卵即ち秋蠶を以て產付けたるもの卵粒小に且つ卵殼薄き發生の早きもの貯藏器の不完全なるもの等總て濕氣に感染し易きものに多きを以てなり且つその死卵が乳白色を呈し暗黑色の小點を存するを見れば學說上温度の劇變に由り呈したる死卵の狀況の暗黑色若くは紫黑色を呈すべしといふに符合すればなり

被害の影響を被るべき地方は第一は東筑摩南北安曇の製種家にて愛知、山梨、小縣、更級、埴科、西筑摩之に次ぎ上州、伊那、岐阜、神奈川は次たり○被害の歩合前記十箇處の風穴に貯藏せる蠶種は七萬千二百餘枚にして其概略の歩合は百分の六七ならん○尙ほ死卵の原因を警察官不時の檢査に歸する當業者多し或は然らんも知れず何となれば檢査の方法は穴内は暗黑にして能く檢分し得ざるを以て穴の入口迄持出し開封せる等ありしと云ふ其時温度五十度餘なりしやも圖られずと云ふにあるものゝ如し兎に角本年に於ける被害は穴の良惡に關するにあらず全く他に原因ありしものなることは確かなりといふ

◎夏蠶の飼育盛に行はる

本年は全國を通じて夏蠶の飼育大に行はれ是が爲め其收繭も非常の巨額に達すべきことなるが何故此に至りしかといふに率ね三原因に歸するものゝ如し第一霜害の爲め現に飼育中の蠶兒を遺棄したるよりして桑葉に餘剩を生じたること第二蠶兒掃立の數寡少なりしに由り同じく桑葉の超過を來したること第三或部分の地方にては春蠶の景況佳良なりしかば自ら養蠶家の氣配引立ち夏蠶の飼育に從事した

るもの多かりしこと是なり桑葉の不足養蠶家に取りては固より此上もなき困難なれども其過剩も亦却りて憂ふべきものありて存す他なし夏蠶飼育の爲め濫に桑葉を給するときは啻に樹の生力を減耗するのみならず刈込期に後れ培蠶時を失ふを以て必ず明年の發芽に大なる影響を及ぼし其得る所は以て其失ふ所を償るに足らざればなり

◎生絲直輸合資會社

横濱同伸會社の前副社長たりし新井領一郎氏の發起せる同社は氏及び原善三郎、茂木總兵衛、澁澤作太郎、森村市太郎、伊藤富次郎の六氏協同し合資會社の組織にて資本金を五十萬圓と定め社名をば横濱生絲商會と名け同市本町四丁目貿易商會の店及び倉庫を讓受けて本年十月下旬より生絲の直輸出に從事する計畫にて前月(八月)二十五日米國に向ひ出發したる新井氏は同伸會社の事務引繼を終り次第其儘紐育府に在留して業務を執る筈なりと云ふ

◎繭仲買人の狡猾

山梨縣下にては本年の產繭非常の少額にて各製絲家は孰れも其原料に不足を告げ大に苦み居たる際房總常野等各地の產繭は價格頗る低廉なりとの報道に接したるを以て先を爭ひ同地方に人を派して其買入を爲さしめたり然るに此買入人も順次歸帰し從つて繭の入荷も漸く減少したるより甲州の繭は其價格大に氣配を持ちたるも各製絲家は當分其原料に缺乏を感せざる故に低廉のものにあらざれば容易に購收せざるが爲め仲買人の利益甚だ少なくされば迚他の府縣にまで出張して商業に從事する程の資力もあらざるに由り同業者の間に密々熟議を凝して縣内の養蠶家中繭を貯藏するものより廉價にて買落さんとする猾手段を運らし同業者八九名づゝ團結して其内の甲は右の繭を所有するものゝ家に至り其品を一見して相場より頗る低廉の價を附し買取を申込み乙亦此の如くし丙丁戊己亦皆此の如くし繭の所有主をして眞に特價は斯く下落したるものゝ如く思惟せしめ遂に其繭を持あぐみて之を手放さしむ由にて此姦策に罹り許多の損失を被ふりたる養蠶家は尠少ならずとのことなるが實に惡むべきことならずや

◎西多摩郡の秋蠶及品評會

東京府下西多摩郡にては去る十五年の頃より專ら秋蠶を飼育することゝなり年は一年より盛況に趣き本年の如きは郡内養蠶家の八九分迄之が飼育に從事せしに非常の上作にて收繭の總價格は極めて廉價に見積るも十萬圓を下らざるべしとのことなり又同郡氷川外四ヶ村合同して過般農產物品評會を開設せしとき同郡の名望家にして本會の贊成會員たる下田伊左衛門氏は推されて其審査長となれり翌月五日に褒賞授與式を施行し優等の出品者には郡長より夫々賞品を授與せり當日繭にて一等賞を得たるものは福田操三原島甚三郎の二氏又生絲にて同賞を得たるものは木村源兵衛氏なり右の氷川村と云ふは甲州に接近せる山間の僻村なるも開會中は觀覽者も相應にありて頗る賑ひたる由

◎信州に細絲の製造を增す

昨年より本年に渉りて絲況の大勢は米國向の太絲よりも佛國向の細絲賣行よくして需用の多きが爲め各地の製絲家は漸く太絲の製造を減じて重に細絲を製出するの傾向あるより從來太絲一方なりし信州の製絲家も俄に細絲を挽くに至り從來米國輸出のみを眼目となせる諏訪地方の製絲家すら競ふて太絲

を廢するの勢となれり臨機應變は固より商略の常にて利害得失は容易に斷定するを得ずと雖も今日の絲況が何時迄も持續すべきものなるや否は製絲家たるもの殊に信州の當業者にありて宜しく十分に研究すべき重大緊要の一問題なるべしと某老練家は說けり

◎蠶種に關する諸問の答

我大日本蠶絲會に於ては蠶種上に就て聊か調査を要することあるに由り過般各地方廳又は蠶絲組合事務所其他篤志家等に向て諸問案を發送せしに頃日追々其答書に接するを以て逐次其要領を摘記し讀者諸君の瀏覽に供すべし

一本年他縣より輸入せる蠶種結果の良否

大同小異にして漫りに判定すべからざるなり例年亦然り（京都府加佐郡蠶絲業組合事務所）

縣下養蠶業組合に於て本年他縣蠶種の輸入先は長野滋賀福島埼玉各縣及北海道の數ヶ處にして甲乙丙丁各組合に於て飼育上の結果を異にするは購入地の撰擇のみならず飼育上諸種の關係より或は蠶病を發し或は粗漏の飼育より終に收量を減じ好結果を得ざるものなしとせず一般に其縣を指し不良のものとも云ひ難からん（兵庫縣廳）

本縣廳に於ては從來之が調査ありしを聞かず從て其如何を知るに由なきも我養父朝來郡は縣内にありて蠶業尤盛大の地なるを以て一斑以て全豹を推すに足るべければ其實況を記して以て報道せん抑も郡に購入する蠶種一萬有餘枚の内滋賀縣其八歩を占め福島縣之に次ぎ長野群馬の二縣又之に次ぐ其他は僅少なり例年滋賀縣の產概して不結果にして他は優劣なきが如し本年も亦然り（兵庫縣但馬國朝來郡喜田組山崎久米藏氏）

最も良結果を奏したるものは埼玉縣の製種にして不結果を奏したるものは長野縣の製種なり（三重縣伊勢國三重郡四郷村伊藤小左衛門氏）

他縣製は僅に長野蠶種の小數を輸入するのみ（山梨縣甲府市常盤町山梨農會）

過半は長野縣下の製造に係るものを需め其他は富山福島群馬滋賀の諸縣より輸入す郡上郡は富山縣製造の蠶種七分以上に居れり年來花主を定めて販賣するは長野縣の製種家に多く是等は毎年概ね好結果を奏す然れども漸く聲價を博するに從ひ不良の蠶種を輸入するもの年一年に增加するの傾きありて全般の結果は福島縣の蠶種に劣るものゝ如し又福島縣の蠶種は概ね善良なるも地方飼育者の技術に拙きより間々失敗するものありて爲めに未普及するに至らず之に反し富山縣の蠶種は概ね姫蠶にして種質不良なるも蠶兒の强壯なるを以て未熟者にも容易に飼育し得るが故に其成繭の粗惡なるにも拘はらず之を需むるもの未絶えず群馬滋賀諸縣下の蠶種は近年往々違蠶するものありて爲めに漸次減少するの傾きあり（岐阜縣美濃國蠶絲組合取締所）

富山長野福嶋の三縣より輸入す而して十中の六は富山二は長野〇、五は福島一、五は自國產なり例年の景況福島縣產は重に赤熟青熟にして飼育に長じたるものは良結果を得るも拙きものは失敗多し富山縣產は重に下等の姫蠶種にして巧拙兩者通じて甚しき失敗は少しといへども大抵多少微粒子を含有するを以て蟻量に比し收繭の割合凡そ八分位なるのみならず繭質概して粗惡なり長野縣產には里俗眞蠶と稱する種類多し悉く良結果を奏すとは云ふべからざれども概して繭質中等に位

し巧拙南者通じて遊蠶少し（岐阜縣飛騨國蠶絲組合取締所）

從來及本年共に他縣より輸入する蠶種は重に滋賀縣下の產出多く長野縣下の產出之に次ぐ罕には良好なるものなきにあらざれども概して粗製多く又病毒を含有せざるものは殆どなきが如し且つ縣下は養蠶の事業極めて幼稚なれば旁以て好結果あること少し（高知縣土佐郡小高坂村西内義顯氏）

本年の實況は未之を細調する能はざるも年來の實蹟に依れば輸入蠶種は概ね縣內種に劣るを例とす故に本年も亦然らん今其一二の例を擧ぐれば昨年飼育せる栃木富山の蠶種は其結果不良にして殊に栃木種は失敗甚だしかりし又彼の飛白蠶種の如き一時好事家の間に行はれしも一二年實驗せしものは大抵絕種せしを以て今一兩年中には痕跡を見ざるに至るべし從來本縣に輸入し來る蠶種は群馬福島長野富山栃木等の各縣に產するものを以て主とすれども其結果は何れも悪しき方なり故に本所を始め各郡組合事務所に於ては縣外種の產地及其製造人に就き專ら注意し居れり（大分縣蠶絲業組合事務所）

他縣より輸入する額は至りて僅少にして捨立數千分の二三に過ぎざるべし其蠶種は福島群馬長野等諸縣の製造に係り可なりの結果はあれども何れも輸入の年よりは復製種のもの好結果を奏するが如し（熊本縣蠶絲業組合取締所）

信州商人或は越州藥賣抔名もなき蠶種を持來るあるも養蠶家と稱ふる程のものは之を買取らず僻村の地に少々買取るものあれども飼養不完全にして證徵となすに足らず福島其外有名の蠶種或は西ヶ原蠶種とかは注文する人あれども至りて稀なり又其結果は飼養の巧拙に由ると雖も初年の結果は十分ならず二年目より効能を顯はすこと多し（熊本縣託摩郡大江村長野濟平氏）

一自縣蠶種の結果如何

本府製蠶種は結果良好なり（京都府加佐郡蠶絲業組合事務所）

縣內の蠶種は組合により或は良結果を得たりといひ或は可なりの收穫ありたりといひ或は病毒あるを免れずして他縣產に比すれば中等以下に位し十分なる結果は得難しといひ區々なれども要するに蠶種撰擇上には各注意を凝し居れり（兵庫縣廳）

自縣製のものは結果良好なり故に逐年加增す（兵庫縣但馬國朝來郡喜田組山崎久米藏氏）

當縣製蠶種は何れも良結果を得たり（三重縣伊勢國三重郡四鄕村伊藤小左衛門氏）

自縣製の蠶種と他縣製の蠶種とは其結果別段の徑庭なしされど自製蠶種は稍と優良なるものあるが如し（山梨縣甲府市常盤町山梨農會）

近來地方にて製造したる蠶種の飼育し易きことを信じ自製するもの漸く多きを加ふるも製種の經驗なき幼稚なる養蠶者にありて往々失敗するものあり然れども其業に熟練したるもの〻製種は能く地方の飼育に適するのみならず隣縣へ輸出し相應の聲價を得るに至れり（岐阜縣美濃國蠶絲組合取締所）

縣下美濃國より僅に輸入するありと雖も常に失敗多し又國內製造のものは結果中等以上なりとす（岐阜縣飛騨國蠶絲組合取締所）

自製蠶種も亦輸入蠶種と同一にして健全無毒のものに乏しく孰れか好孰れか惡は判然せず本年の如きは平年に比し春來氣候稍冷氣なりしが縣下の養蠶には却て適應せしや蠶種の如何を問はず概して結繭せざるものなかりし然れども生繭に於ては大に善惡あり即ち蠶種の良否に起因せるは論を俟たざる所なり概して蠶種は縣内外の產を問はず商人の手を經て賣買するものは一般に不良なるが如し（高知土佐郡小高坂村西内義顯氏）

自縣產は縣外種に比すれば其結果概して良好なり但軟化病を發し往々失敗せしものなきにあらざるも是等は昨年甚しき軟化病に冒されたる製絲家の蠶種に限れりと云ふも不可なるなければ本年の失敗は固より當然にして敢て怪むに足らざるべし本縣は概して小製種家多く大製種家少きを以て蠶種改良上頗る困難なり（大分縣蠶絲業組合事務所）

自縣製種は例年可なりの結果あり（熊本縣蠶絲業組合取締所）

是迄の經驗上にて自縣の蠶種を信用すること多く他縣の蠶種を用ふることは稀なり余も先年丹治梅吉氏の蠶種を飼養して以來繼續して年々之を飼養す其外青熟小石丸昔年々の繼續に係る四年前よりは框製を以て原種を精撰するに年々其効を顯はし昨年の檢査に赤熟の如きは百蛾に一の病蛾なきに至れり（熊本縣託摩郡大江村長野濱平氏）

一將來善良蠶種を普及せしむる方法

蠶種製造を別つて原種用及製絲用となし之を實行せんとするには組合規約の如き制裁力の弱きことにては到底行はるべきに非ず必ずや國法となし且嚴重なる檢査法を設けざるべからず目下の如き姑息の改良に安んじ種類雜駁纖維不均病毒蔓延の傾向あるも措て問はざれば他日臍を噛むの悔あらん原種用製造所の設に就ては異論あるべしといへども目下の如く蠶種家各自に原種を製出し種々の名稱を附し纖維の細太解舒の難易を思はざるのみならず病毒すら猶且恐れざるもの多き現況なれば區々の小理窟に拘泥せずして斷然大改良を計らざるべからざるなり（京都府加佐郡蠶絲業組合事務所）

團体蠶業組合に於て十分なる檢査法を施し飼育に供するの說あれども現今の有樣にては未成績の著るきを見ざるあり又官設蠶種檢査所の開設を希望するものありと雖も製造地の各府縣に跨り少數の檢査所にては到底檢査上の不便多く良しや之を各府縣下に設置するも尙不便を免れざるものゝ如く加之費用の點に於ても顧慮せざるを得ず要するに改良蠶種普及の方法に至りては今輕々に意見を述べ難し（兵庫縣廳）

前項に述ぶる如く自縣蠶種は敢て他縣の產に劣らざるを以て爾來一層銳意改良し信用を博せしめ然る後養蠶組合と議し販賣費を要せざるが故に十分代價を低廉にし自縣蠶種を購入せしむるを普及上の主要と認む（兵庫縣但馬國朝來郡喜內組山崎久米藏氏）

成るべく一種類を要す是は人民の協同上にて爲し得べき見込なり（三重縣伊勢國三重郡四鄕村伊藤小左衛門氏）

一に共同購入の法により各團体より總代人を派し蠶兒飼育中各製種家を巡視し其結果豐作なりしものに就き製種するより外に良策なきを信じ其組織勸誘中に之あり（山梨縣甲府市常盤町山梨農

會）

蠶種共同組合を設け地方の熟練なる製種家及見込ある地方の篤志なる製種家と特約し善良の蠶種を製造せしめ漸次蠶種を一定ならしむるの方針を執るの見込なり（岐阜縣美濃國蠶絲組合取締所）

從來之が普及に付き種々計畫をなせしも一として行はれざるなり是れ國内養蠶者は概して智識薄く進取の氣象に乏しく徒に舊習を墨守すると富山縣下蠶種商人の如きは冬期輸入し來り各得意先へ配付し翌年夏時來りて代金を徴收するの習慣にして養蠶者は其年の結果如何に依りて定價に拘はらず幾分の仕拂を爲すも承諾するの瑣々たる利益に迷ひ假令他縣下に良種の產出するあるも他より奬勵誘導するも容易に是を捨てゝ彼を求むることを爲さず斯の如き事情あるを以て當國内良蠶種の普及を計らんには其輸入の最多額を占むる富山縣下蠶種製造人が飼育する原種を善良ならしめ隨て粗製の弊を矯正し販賣の方法を改正する等其源を改良するより他に良法なかるべし（岐阜縣飛驒國蠶絲組合取締所）

近來府縣限り組合取締法を施行せられ或は準則に基き組合を以て之が改良及弊害矯正の方法を議定する等の事實あるも到底國家的事業に對し府縣區々の取締を爲すも其効著るしからざるべし余等の見る所を以てすれば中央政府に於て完全なる蠶種檢査規則を發布し其費用は蠶種より徴收し一般の取締法を設けらるゝの外良法なからん（高知縣土佐郡小高坂村西内義順氏）

此事に就ては苦心することなれども未其良法を得ず其れ畢竟當業者の智度低きに起因するものなれば放任策にては到底將來に向つて善良種の普及を計ること難かるべし故に蠶種製造家に制限を立て國税又は縣税を課し相當の檢査法を設け以て小製種家を漸次廢業せしむるに至らば庶幾は逐年善良種の普及を見るを得ん本縣下西國東郡に於ては蠶種製造家の數を限り飼育中の實況を精査し結果の良好なるものを撰び撰繭撰蛾に至る迄一切の監督を爲し以て製種せしめ普通の代價より幾割を減じて各養蠶家に購求せしむるの規約を設け一方に於ては郡費を以て製絲家を保護することゝなり本年より將に實行せんとす是等は監督員に其人を得ば至極良法ならん果して實効を奏するに至らば各郡にも亦漸次奬勵する見込なり（大分縣蠶絲業組合取締所）

幸に本縣は客年末蠶絲業取締規則の發布ありしを以て夫に基き縣下一般に蠶絲業組合規約を設け本年より實施中にて此組合規約中蠶種の種類を限り原種は悉く框製に改良し製絲用種も亦本年より悉皆顯微鏡檢査を行ひ其病氣の歩合は或組合の如きは百分の七迄に縮め又種類も青熟赤熟又昔等の二三種に限りしものの之ありて着々改良の緒に就かんとせり然れども十分の改良を爲すには多少經費を要することなれば官府の規則を以てするか將た官府の保護奬勵を以てすれば一層奏効迅速なるべきに付き最も希望に堪へざるなり（熊本縣蠶絲業組合取締所）

此條項に就ては別に所見として述ぶべき程の事無しと雖も小石丸の如き最も製絲に適する種類を百枚なり二百枚なり一地方に引込み價格を普通よりも高く買上ぐるは一の便方なるべしと思考す（熊本縣託摩郡大江村長野游平氏）

一本年蠶種掃立の枚數及其收繭高

府下本年蠶種の掃立は二萬六千枚にして收繭高は一萬六千石なり之を例年に比すれば三割以上の

減額とす（京都府加佐郡蠶絲業組合事務所）

本年縣下掃立蠶種の總數は未調査するを得ざれども概して前年よりは增すことあるも減ずることなし又收繭の結果は地方に由り或は多少の增石を見ることあるも概して少きは一割内外多きは二割を減じたるは畢竟蠶病其他種々氣候の不順若くは飼育の關係より不十分なる成績を見るに至りたるものゝ如し（兵庫縣廳）

本項は未知る能はざる所ありて確たる見留付き難きも大凡蠶種掃立枚數四萬三千枚收繭高三萬二千石にして例年に比すれば增（兵庫縣但馬國朝來郡喜田組山崎久米藏氏）

本縣下本年蠶種掃立の數一萬五千枚　收繭高凡一萬二千石　例年に比すれば八分作（三重縣伊勢國三重郡四鄕村伊藤小衛門氏）

蠶種掃立枚數は大凡十二萬枚にして其收繭高は七萬石之を例年に比すれば掃立枚數に於て八萬枚を減じ收繭高に於て五萬石減少の見込なり（山梨縣甲府市常盤町山梨農會）

本年美濃國中に掃立たる春蠶種の枚數は大約七萬枚にして其收繭高大凡四十二萬貫目なり之を例年に比すれば掃立枚數に於て凡一割半を減じ（掃立枚數の減じたるは第一昨年桑葉の高價にして收支相償はざりしこと第二氣候の爲めに一般違蠶者の多かりしこと第三蠶種の供給平年より少かりしこと以上三者に原因す）收繭高に於て凡一割を減ぜり（岐阜縣美濃國蠶絲組合取締所）

本年に於ける蠶種掃立枚數は大凡四萬枚（五分種）にして收繭高は大凡二萬四千石之を例年に比すれば掃立枚數は凡一割三分を減じ收繭は凡三割を減ずるの見込なり（岐阜縣飛騨國蠶絲組合取締所）

本年縣下蠶種の掃立は昨年に比し稍減少せし實況なりしも養蠶の好況により收繭は敢て異なることなかるべし其掃立を減少せし理由は絲價の影響により桑葉の高價ならんことを推察したるに外ならず然るに實價は却て平年より低廉にして村落に由りては多少桑葉を餘すに至れり收繭高は凡八千石内外なるべし（高知縣土佐郡小高坂村西内義顯氏）

本年縣内蠶種の掃立枚數は凡一萬七八千枚にして收繭額は一萬五千石内外なるべし例年に比し增收の見込なれども晩生地方は此頃の降雨續きに寒冷加はりたれば幾分か發育を害せしならん（大分縣蠶絲業組合取締所）

本年蠶種の掃立枚數は確たることは判然せざれども凡一萬枚位にして成繭は平年に比せば凡七八歩作ならんか（熊本縣蠶絲業組合取締所）

根據を得ざれば確答し難しと雖昨年縣下の商人が西京へ上したる絲は凡一萬斤（餘縣の品も交る）又一昨年種子紙の賣高凡一萬枚石にて考ふれば繭の產出高も凡一萬石位なるべし尤年に由りて增減あり昨年無闕に種子を掃御し其未桑葉の不足よりして非常の高價を顯はし繭は却て下直にして損失を被りたるもの多き爲めに本年はあつものに懲りて掃立は餘程減少し收獲も之に準じて減ぜしならん然れども全躰の退歩にてはなく進行の段階なるべし（熊本縣託摩郡大江村長野濟平氏）

◎富岡絲製所の拂下

農商務省所營の富岡製絲所は今般公賣入札法を以て拂下ることゝなり本月十日午後第一時に入札を執

行したり當日農商務省よりは參事官志村源太郎氏及會計官吏等出張し入札者は所長速見堅曹氏の呼出に應じて入札保證金を納めたる後出張官先づ豫定價格を入札人の面前に備へたる箱中に投じ夫より順次入札を爲せり入札人は五名にして開札の結果は金七萬五千二百二圓拾錢群馬縣那波郡宮郷村森村堯太同十萬二千五十圓長野縣伊那郡飯田町吉澤利八同十萬二千五百五十圓五十錢同縣諏訪郡平野村林國藏同十萬三千百七十圓滋賀縣酒田郡長濱町下郷傳平同十二萬千四百六十圓東京府三井高保代理人津田興二なりき次に豫定價格を開封して報告せり其額は金十萬五千圓にして三井高保氏の代理人津田興二氏の入札のみ豫定價格の上に達し且最高札なるを以て該所は三井の有に歸したり該所は當に内國製絲家をして粉式する所あらしむるのみならず遠く海外に向て名譽を輝せることなれば其盛衰は則ち帝國の榮辱に關するが故に事業の繼續者にありては一層注意して益々聲價を發揚せんこと勉むべきなり

◎出張と歸京

大日本蠶絲會幹事高橋信貞氏は富岡製絲所及長野縣へ同小畑岩次郎氏は山梨外六縣へ各其本務農商務省の命を帶びて出張の處此程夫々歸京又新潟縣北蒲原郡水原町の蠶種繭生絲品評會へ審査員として客月中本會より派遣したる會員吉池慶正氏も過般已に歸京せり

◎大日本蠶絲會員の加入

○賛成會員

東京　渡邊　朔

○通常會員

新潟　三輪爲次郎　同　三輪振次郎　千葉　竹澤　章
栃木　手塚千代吉　岩手　西尾文助　和歌山　西山豐三郎
高知　野村常馬　鹿兒島　大久保長良　同　是枝榮造

◎第四回内國勸業博覽會規則及同賣店規則の發布

明治二十八年四月一日より七月三十一日まで京都市上京區岡崎町に開設せらるべき第四回内國勸業博覽會規則は同事務局告示第一號を以て又同會賣店規則は同事務局告示第二號を以て本月八日各發布されたり

●稟告二件

會務整理上差支不勘候間會費未納の諸君は大日本蠶絲會宛にて東京郵便局又は東京市日本橋通郵便爲替取扱所へ向け此際速に爲替御振込相成度郵便切手代用は一割増若又現金御拂込なれば通運會社より本會迄の持込賃金三錢を加へ御送付相成度事

本會員諸君の内會費御拂込の節爲替劵面の受取人宿所氏名欄内（本會事務所の舊所在地及幹事の氏名（例へば東京北豐島郡巣の川村字西ケ原大日本蠶絲會何の誰）を御記入相成又拂渡郵便局を王子と御指定相成候向有之受取方不便不少候間右は豫て稟告候通り現時の所在地及大日本蠶絲會とのみ御記入且郵便局も前項記載の二ケ處の内へ到達候樣御執計相成度事

大日本蠶絲會

廣告

有隣堂發兌之內蠶桑及製糸書目錄

定價　郵税

一農商務省御藏版蠶桑生理問答　全壹冊　四拾錢　貳錢
一桑實驗錄　全壹冊　五拾錢　四錢
一微粒子病試驗報告　全壹冊　八錢　貳錢
一蠶病試驗成蹟第一報　全壹冊　三錢　貳錢
一　〃　第二報　全壹冊　十二錢五厘　貳錢
一　〃　第三報　全壹冊　拾七錢　貳錢
一　〃　第四報　全壹冊　廿貳錢　四錢
一　〃　第五報　全壹冊　拾貳錢　四錢
一　〃　第六報　全壹冊　三拾五錢　六錢
一蠶事試驗成蹟第七報　全壹冊　貳拾五錢　四錢
一　〃　第八報　全壹冊　廿五錢　四錢
一蠶事報告　第九號　全壹冊　貳拾五錢　四錢
一蠶種貯藏器圖說　全壹冊　八錢　貳錢
一農事園解養蠶法壹葉　拾五錢　貳錢
一應用原理桑新書　全壹冊　九拾錢　八錢
一ハーベルシード氏養蠶論　全壹冊　壹圓拾錢
一微粒子病肉眼鑑定法　全壹冊　四拾五錢　貳錢
一蠶桑病理問答　全貳冊　四拾錢　貳錢
一蠶桑講話筆記　全壹冊　廿五錢　貳錢
一養蠶圖解　全壹冊　廿四錢　貳錢
一實用蠶桑書　全壹冊　六拾錢　六錢
一養蠶夢物語　全壹冊　六拾錢　六錢
一溫暖育養蠶書　全壹冊　五拾錢　六錢
一養蠶扱方　全壹冊　拾八錢　貳錢
一增補中蠶三版外學理論實事要錄　全壹冊　六拾錢　八錢
一蠶桑指針　全壹冊　六拾錢　六錢
一養蠶論　全壹冊　廿五錢　貳錢
一養蠶要記　全壹冊　貳拾錢　貳錢

發兌　東京京橋區南傳馬町二丁目　**穴山篤太郎**

醫化學用蠶業用　獨逸國製造

顯微鏡

六百倍より千八百倍「油浸裝置」に至る迄醫學の進歩と蠶業の隆盛に赴くに從ひ弊店も勉て業務を擴張せざるべからず就中顯微鏡の如きは獨逸國製造元と特約を結び爾來精良品を直下げに判廉價に販賣仕候ふ御購求あらんことを特に御報知次第郵送可仕候

定價表御入用の向は

東京市日本橋區本町三丁目十八番地

屋號いわしや

總本店　**松本市左衛門**